

2021 年度海洋教育実施状況報告書

糸満市立高嶺小学校

1. 実施概要

学校名

糸満市立高嶺小学校

採択活動名

海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 浜辺で遊ぼう	1 年	海人科、生活科
2. 海の生き物探し	2 年	海人科、生活科
3. 魚を捕まえる道具を知ろう（作ろう）	3 年	海人科、図工、社会科 総合的な学習
4. 海の生き物、環境等、学年の計画で活動	4 年～6 年	海人科、総合的な学習、 社会科、国語

取り組みの概要

- 【6年生】①ウニの放流体験・・・人工授精したウニを放流する体験。沖縄水産高校海洋生物科と連携。国語の単元と関連して作成した資料の発表会
 ②環境出前講座・・・海ごみに関する講演会・ワークショップ（沖縄テレビ主催）
 ③SDGs 未来ラボ出前講座・・・SDGs に関する講演会
 ④食品ロス講話・・・環境教育の一貫。自分達の生活を見直しごみを減らす取組を行っている講師を招いての講話。
- 【5年生】①ウニの人工授精・・・ウニの人工授精体験を実施。沖縄水産高等学校海洋生物科と連携。→1年後の「ウニの放流体験」に繋げる
 ②水質環境調査・・・嘉手志川や報得川の水質調査や生き物調査を行う。
- 【4年生】①かまぼこ作り体験・・・沖縄水産高等学校食品科学科との連携により実施。
 ②タマン稚魚放流・・・糸満市商工水産課の協力により実施。
- 【3年生】①罾づくり・・・魚捕獲の罾を各自身近な材料で作成。リーフトレイルにて捕獲作戦。
 ②魚飼育・・・魚の実態を観察するために学年で水槽にて海水魚を飼育。
 ③見学・・・沖縄県立博物館と海人工房資料館を見学。社会科単元と関連して実施。
- 【2年生】①リーフトレイル体験・・・海の生き物の観察。沖縄水産高等学校海洋生物科と連携して実施。
- 【1年生】①浜辺遊び・・・北名城ビーチにて浜辺あそび。浜辺の生き物を見つけたり、浜辺で砂遊びや貝殻・サンゴを拾ったりする。
 ②貝やサンゴで作成・・・拾った貝やサンゴで写真立ての枠やリース枠を作成



1 年 浜辺遊び



4 年 タマン稚魚の放流



5 年 嘉手志川の生き物調査

2. 自己評価

(1) 妥当性

①テーマと目標設定について

- ・各学年、設定したテーマに沿って学習を行うことができた。また、他教科の目標との関連付けをすることができた。

②学習内容の分量（無理のない計画であったか）について

- ・総合的な学習の時間や他教科と関連付けて計画を立てることである程度無理なく計画を立てることができた。今回は休校もあり時間が短縮されたが、ある程度計画に余裕があったので計画通りにできた。

③内容は適切であったかについて

- ・色々な角度から海についての学習を深めることができた。
- ・学年や取り組み内容によりばらつきがあり、今後学年や内容に応じて検討する必要がある。

(2) 有効性

①計画通りに実施されたか、協力体制について

- ・今回は休校期間やコロナウイルス感染防止対策のため活動に制限が生じ、計画通りに行かない内容もあったが工夫して行うことができた。ただ天候に左右される活動では、前日まで実施できるかの不安があった。
- ・協力要請した外部機関は協力的で連携しやすかった。また、児童の安全管理や送迎など、ボランティアで多くの保護者が協力してくれた。

(3) 効率性

①学習の実施時期は適切であったかについて

- ・体験学習等は関係機関も予約等の時期が集中するためなかなか予定通りに実施できない場合もあった。また、感染防止のために当初の計画とはズレが生じることもあった。

②物資、資金などの規模や質は適切であったかについて

- ・今年度も昨年度に引き続き予算も十分にあったので、校外での活動もやりやすかった。

(4) 持続性

①学習内容や成果が適切に活用される見込みがあるかについて

- ・今年度は隣学年間の発表会が全学年でできなかったが、資料の掲示等を通して他学年への発表を行うなど工夫して実施した。
- ・隣学年では確認できるが全学年を通した継続・応用する仕組みが必要である。タブレット等を活用していきたい。

(5) 信頼性

①十分な体制が整えられたか、外部への公表・発信について

- ・事前に現地に行って確認したり、緊急連絡網を作成したりして、十分な体制を整える事ができた。
- ・教職員は昨年の資料や経験から海洋についてかなりスキルアップしているが、より専門的な知識や技術を習得するため実施しながら学んでいきたい。
- ・体験活動や取組の様子を学校だよりや学校HPで紹介した。また、活動の記事や作文が新聞に取り上げられることで外部へ発信することができた。

(6) 成果と課題

①成果

- ・海の生き物や糸満のサバニの歴史など地域の理解につながった。また、海の環境を守る視点から発展し、水質調査などを行い身近な自然環境を守る必要性を感じるようになった。
- ・他教科との横断的な学習を進めることで多面的・多角的な学習を行うことができた。
- ・昨年度の活動をさらに深めていくことにより、海洋への関心を高める事ができた。

②課題

- ・今年度もコロナ禍で体験活動が制限されることが多かった。
- ・他の3小学校や中学校と情報を共有していく必要があるが、今年度は共有できない状態であった。

【その他コメント・感想】

- ・海洋教育に取り組むことにより地域のよさや海の素晴らしさに気づくことができた。
- ・高校生や各関係機関団体との交流や、体験活動をまとめて発表することで、コミュニケーション能力の育成にもつながると考える。
- ・これまで予算も十分にあったので校外での活動がしやすかったが、次年度は海洋に係る予算がないため、持続可能な活動・取組を工夫しながら実施していく必要がある。
- ・今年度は休校期間やコロナウイルス感染防止対策のため活動に制限が生じ、計画通りに行かない内容もあったが、何とか工夫して行うことができた。
- ・昨年度は体験活動が中心であったが、今年度はさらに「広げよう」の観点から、「地域の環境や地域の歴史」、「昔の道具の工夫」、「自然や生活環境を守る」等で他教科と関連し広げることができたのは成果であると考え。特に5年生は海に流れ込む報得川や嘉手志川の水質調査や生き物の生態調査を行い、身近な環境について学習することで多くの学びが得られた。

3. 関係者評価

- 糸満＝うみんちゅは50代（世代）までなので、今の若年層にはピンとこないのでは。だからこそ、海洋教育は今の糸満の子ども達に必須だと思う。
- 漁港で栄えた糸満の歴史も併せて学ぶと、育ったふるさと（糸満）に誇りを持つことができるのでは。
- 水産高校、海人工房、糸満ハーレー、糸満市場など、環境は整っているのに、ナイスタイミングのプログラムを活かしてほしい。
- 学習ボランティアの際に話していた子ども達から「魚を初めてさばいたよ。ビックリしたよ。」という声があった。切り身しか見たことがなかったのでしょうか。百聞は一見にしかず！ですね。
- 自分の子どもは、これまで糸満の海に関してあまり関心を示していなかったが、海洋教育でいろいろと調べたり、体験活動に取り組んできたことで、糸満の海について興味を持つようになってきた。
- 今後、ウニの陸での飼育体験（キャベツなどのエサをあげる体験等）や昔の糸満の漁師の漁法（例えば、GPSのない時代にどうやって遠方まで漁に行けたのか、など）など、探究的に調べる活動にも取り組んでみてはどうか。